

# 不安ひろがる 高校全県1区制 “地域の声をしっかり聴いてください”

## 高校全県1学区を急ぐのではなく、住民の意見を充分聞くことを求める意見書：可決

速報！ 17日、12月議会の最終日、先の請願採択を受け、川副議員から提出された「全県1学区を急ぐのではなく、地域の住民や議会の意見を十分聞くことを求める意見書」が賛成9、反対3で可決しました。

可決された意見書全文は次の通りです。

\* \* \*  
県教育委員会は、現在の6つの通学区の枠をなくし、全県1学区にしようとしています。通学区制度の変更は、私たち甲良町にとっても、滋賀県の教育や、子どもたちの未来にとっても、重大な問題だと考えます。これから高校へ進学しようとする子どもや保護者の間で心配が広がっています。

仮に全県1学区になれば、特定の「進学校」に県全域から受験校に集中します。また、県下すべての学校が序列化されます。私たち甲良町を含む湖東学区では、そのことが象徴的に現れるでしょう。その結果、一方で、「進学校」をめざす子どもは、さらに激しい競争を強いられ、他方で、多くの子が不本意入学を余儀なくされ、「あきらめムード」が広がります。

甲良の多くの子どもは、これまでのように近くの学校ではなく、遠方の学校に行かざるを得なくなると予想されます。その結果、親と子どもとの負担が増え、学校と地域のつながりが弱まります。このことを甲良の親たちも心配しています。

今、子どもと教育が抱える問題・課題がいろいろ指摘されながら、明るい展望が見出せない状況が続いています。その中で県の教育委員会は県民合意がないまま、中高一貫校など矢継ぎ早の制度変更を行い、子どもも保護者も戸惑うばかりです。こうしたやり方ではなく、どの子ども豊かに育つように、また、自らの視野を広げる学力をつけるよう、行政と保護者と教職員が力を合わすときではないでしょうか。

何よりも問題なことは、全県1学区のことが、私たちの地方の教育委員会や議会、学校の教職員、親たちに十分知らされていないことです。少なくとも、多くの人が内容を知らないまま、地域の子どもの未来を左右する教育制度が変わることだけは避けるべきです。急いでは子どもたちの未来に禍根を残します。



記

よって、下記のことを強く要望します。

- 1、地域の父母や教育関係者の意見を踏まえな  
いまま、全県1学区にしないこと。
- 2、甲良町で、検討委員会での内容を広く知  
らせ、住民の意見を求める会を開くこと。
- 3、市町村の教育長・教育委員会の意見を聞く  
場を設けること。
- 4、学校の教職員の意見を聞く場を設けること。

(中略)

平成16年12月17日

甲良町議会議長 宮本一起

討論で、請願では反対したが、ほとんどの人が全県1区になることを知らない、県で条例が可決しても、私たち甲良町の意見を聞いて欲しいなどの賛成意見が出されました。西澤議員は子ども達の現状を訴え、県教育委員会が十一月三十日に地域教育長に正式説明をした直後の十二月二日、条例提出という強行の実態を批判し、賛成討論を行いました。



### 甲良民報

2004年12月19日 No.268  
発行責任：日本共産党甲良町支部  
代表：西澤伸明 甲良町在士463  
Tel.Fax38-4949  
Eメール[info@jcp-nobuaki.com](mailto:info@jcp-nobuaki.com)  
のぶあきホームページ  
<http://www.jcp-nobuaki.com/>